

# 普天間基地「県内移設」断念せよ

沖縄の民意を大事にしたい気持ちは今も変わらない（鳩山首相）

国外、最低でも県外とあれほど繰り返した。公約を破ることは許されない（仁比議員）



## 普天間基地の即時閉鎖、撤去、新基地建設の断念こそ、県民の願い

「『平和な沖縄』を願う県民の怒りに火をつけたのはあなた方だ」。日本共産党の仁比そうへい議員は3月23日、参院予算委員会の「外交・防衛」に関する集中審議で質問に立ち、米軍普天間基地（沖縄県宜野湾市）の問題をめぐり、「移設」先として同県の複数の候補地があがっていることを批判。無条件・即時撤去に向けて米政府と交渉するようこん身の力をこめて迫りました。以下、質問の要旨を紹介します。

仁比氏は、政府は「移設」先の検討は「ゼロベース」といいながら、沖縄県名護市のキャンプ・シユワブ陸上案やうるま市ホワイト・ビーチ沖合案―など県内「移設」案が報じられていることを厳しく批判。「沖縄タイムス」の3月19日付社説が「4月25日県民大会、民意の在り方示す時」と題し、「沖縄県民をおもちゃか何かのようにもてあそぶのはいい加減にしてほしい」と書くなど、県民あげての怒りが激しくなっていることを指摘し、鳩山首相に県内移設の即時断念を求めました。

仁比議員 さきほど、普天間の機能は移転しても基地は継続使用し、有事のときはこれを使う、これもゼロベースで検討している。ただいま運動場に飛行機が落ちました」と避難訓練する小学校。アメリカでは存在が許されないこんな基地は無条件即時撤去しかない

仁比氏は、「日米安保と抑止力（論）で、県民は戦後65年間も基地の負担に苦しみ続けている」と力を込め、普天間基地のフェンス越しにある普天間第二小学校が米連邦航空法による利用禁止内（クリアゾーン）に存在している実態を告発しました。

## 「ただいま運動場に飛行機が落ちました」と避難訓練する小学校

いはあるが、沖縄県民の命を守るという発想の中で、しっかりとした結論を出したい。

仁比議員 県内はもとより、本土も含めて普天間基地の苦しみは、どこに移しても同じ苦しみ。普天間の即時撤去を強く求める。

仁比議員 この小学校の子供たちの避難訓練が毎年米軍機の墜落を想定して行われているということ御存じか。アメリカで存在が許されない危険な基地がこれ以上国民を苦しめ続けることは、断じて許されない。こんな無法な基地は無条件即時撤去する道にこそ解決の道がある。その立場で本腰を入れて、総理、アメリカに交渉を。

鳩山首相 安全保障の考え方の基本的な違

「75%の普米軍基地が沖縄本島に集中する」パネルを示し語る仁比議員



## 仁比議員が紹介した小学校の避難訓練

「緊急連絡、緊急連絡、ただいま普天間第二小学校の運動場に飛行機が落ちました、先生の指示に従い、一年生から三年生は新城児童センター、四年生以上は新城郷友会広場に避難してください、繰り返します、ただいま普天間第二小学校の運動場に飛行機が落ちました」

普天間小学校、普天間第二小学校、嘉数小学校（以上、宜野湾市）、嘉手納小学校、屋良小学校、嘉手納中学校（以上、嘉手納町）の6校がこうした内容で避難訓練を実施。訓練のねらいは、身近にある飛行場から離着陸を繰り返す飛行機によって常に墜落の危険にさらされていることを知り、的確に避難を行えるようにするというものです。

同「緊急マニュアル」には「緊急です。本校運動場に飛行機が落ち児童〇〇名が負傷しています。至急、救急車を要請します」との想定連絡もあります。飛行機の墜落事故を想定した避難訓練は、沖縄県以外では実施されていません。



仁比議員ホームページ

日本共産党